

ズームアップ

商社の人と仕事

グローバルアウトソーシング 事務処理は海を越えたか…？ 中国「大連」での事務処理6年目へ！



なか むら よし かず
中村 義和

株式会社ビジネスアンカー 社長
(兼)大連愛克商務管理有限公司 董事長

この稿の執筆に当たり、私の脳裏に2008年9月16日、快晴微風の大連空港に降り立った時の感慨が再度鮮やかによみがえってきた。年に何回か大連を訪れているが、この日は私にとって万感の思いの日であった。

振り返ればちょうど5年前の2003年9月16日、大連に事務処理子会社「大連愛克商務管理有限公司」を開業し、節目の5年目を迎えた特別な日であった。

1. 大連に子会社設立

話は少しさかのぼるが…。

私共ビジネスアンカーは、2001年10月、蝶理の管理間接部門の事務処理業務を行う子会社として発足した。

設立時より、業務フローや業務内容の精査およびコストの安い地域へ業務処理拠点を移すことなどを検討していた。

その最中、忘れもしない2002年の晩秋、初代社長の倉片さんより「中村さん、大連へ行ってみようか…？」との話があった。

海外にそれほど違和感は感じなかったものの、言語、通信、セキュリティ面などに不安があり、果たして海外での事務処理、特に重要なサービスレベルの維持が可能かどうか懸念された。

2002年末、大きな不安とわずかな期待を抱き、慌ただしく機上の人となった。

大連を訪れてみると、すでにIT関連だけでも

日系・欧米系の企業が300社以上進出していること、日本語教育に非常に熱心であり、インフラ環境も良好であることなどから大連での事業開始に期待が持て、翌2003年4月からFS (feasibility study) を開始すべく東奔西走する毎日となった。

まず、最初に現地での教育を開始することとし、販売資金管理である売掛金、買掛金の照合、消込みからスタートした。

日本から担当者を出張させ、発足に当たって採用した中国人スタッフに対する教育をコミュニケーションも不十分なかで行いながら、悪戦苦闘の末に何とか体制を構築することができた。

そして、FSスタートからわずか半年余りの2003年9月16日、大連香洲大飯店に事務所を構え、オフショア化の第一歩を踏み出したのである。

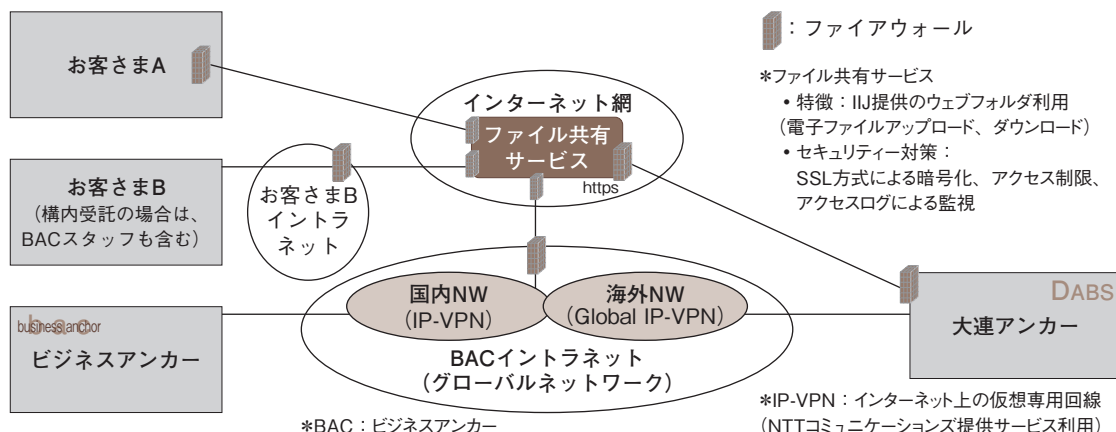
開業セレモニーの最中、それまでのいろいろな思いが私の脳裏をよぎったが、同時に、「最低5年間はこの事業を続けてみよう…」と、ひそかに誓った。

そして、この時のスローガンが、「グローバルアウトソーシング 事務処理は海を越えて…」であったのである。

2. 現況

設立来、間もなく6年が経過しようとしているが、日本と大連との連携効果もあり体制が整ってきている。特に、社員の定着率が高く、開設当初からの社員の大半が現在も勤務してお

大連⇄日本間 ネットワーク（イメージ）



り、事務処理ノウハウの蓄積も進み、内容は充実してきている。

なお、この間、日本の経理処理を大連で行っていることが画期的であるとして、2004年6月にNHKから取材を受け、「おはよう日本」で全国に放映され大きな反響を呼んだ。

この番組のビデオを展示会、セミナーなどで当社のプロモーションビデオ代わりに使わせていただき、会社の宣伝に大いに役立っている。

また、日本本社側において当社の積極的な活用、育成強化を目的とするプロジェクトを立ち上げ、強力なバックアップ体制を敷いている。

これらの結果、現在、業務受託量は増加し、内容も充実しつつある。さらに、今後、業務範囲を拡大していく手を打っている。

3. これからのアウトソーシング

100年に1度といわれる不況下、一部のアウト

ソーシング業界においては苦境に陥っているといわれている。

しかし、果たしてそうであろうか。むしろこの苦境を逆手にとり、業容拡大のチャンスととらえ、事務処理アウトソーシングの受注拡大の芽があるのではないか。

また、ビジネス環境の変化、ビジネスモデルの革新がもたらす大きなうねりが目の前に迫ってきているように思えてならない。

昨今の業務のデジタル化には目を見張るものがあり、今後アウトソーシングビジネスも多様化していくであろうが、一方で、アナログ的な業務が残ることも事実であると思っている。

現在、欧米諸国に大きく水をあけられたアウトソーシングビジネスに今後、日本企業が積極的に目を向ける日も遠くはないと思う。

商社で培った事務処理ノウハウを活かすため、オフショア化をいち早く実現したことは、将来的に訪れるであろうどんな大きな波も吸収できる力があると確信する。

オフショア化の先駆者としての自負、実績と経験を活かしつつ、今後、さらなる拡大、発展に向けて邁進していきたい。

さて、冒頭の「事務処理は海を越えたか…？」については、当会社設立以来のキャッチフレーズである「事務処理は海を越えて…」の5年間の総括として今、自分自身に問い掛けるものである。



事務所入居ビル・大連香洲大飯店